



輝け 多治見高校生!!

— Have a Dream Project —

硬式野球部

本校OB 梶本氏による熱血指導

平成 30 年 6 月 26 日 (火)

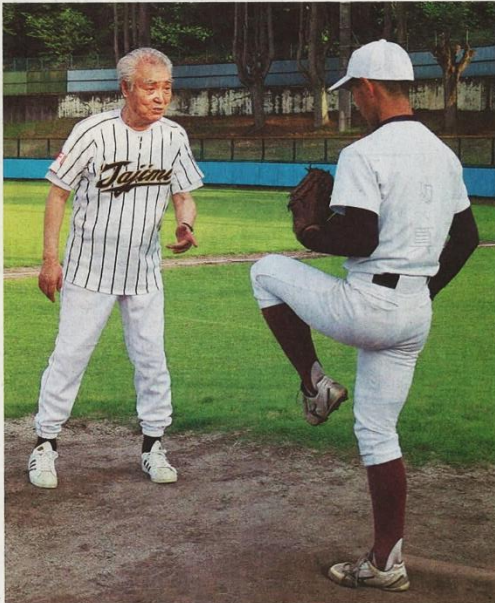
本校卒業生で、阪急ブレーブスでプレーされた梶本憲史氏が26日、来校され後輩の野球部員たちに熱血指導をいただきました。イベントに合わせての来県ではなく、後輩たちの激励のため大阪からお一人での来校でした。先輩から後輩への温かい激励と、熱い思いが伝えられ、選手にとって大会前のビッグなプレゼントとなりました。

中日新聞 2018年(平成30年)6月28日(木曜日)

元プロ野球投手 梶本憲史さん(80)

梶本さんは多治見市出身で、一歳上の兄・隆夫さんは県立多治見工業高校を卒業後、同じく阪急で通算二百五十四勝を挙げる活躍を見せた。梶本さんは多治見高校のエースとしてチームをけん引し、卒業後は阪急で八年間のプロ生活を送って、通算三勝を挙げた。引退後は練習用のボールを寄贈するなどして母校を応援し続けた。一昨夏には練習の見学に訪れたが、元プロ選手は高校生への指導が原則禁止されているため、遠くで見守ることしかできず「グラウンドに立つて、汗のおいをかきたい」と血が騒いだ。昨年十二月、指導者資格を得るための三日間の研修を受け、アマチュア球界のルールを学んだ。「こんな年で研修を受けたのは多分私一人だけ」と笑う。

母校 多治見高で臨時コーチ



松島投手者に軸足の使い方をアドバイスする梶本さん。野球部の公式ユニホーム姿もはっちりと決まっている＝多治見市営球場で

甲子園へ「勝てるぞ」

七月七日に開幕する第百回全国高校野球選手権記念岐阜大会を前に、元プロ野球阪急ブレーブス投手の梶本憲史(旧名・靖郎)さん(80)＝堺市＝が二十六日、母校の県立多治見高校で野球部の臨時コーチを務めた。「後輩たちを後押ししたい」との一心で、元プロでもアマチュアを指導できるような研修に臨み、昨春のセンバツに続く甲子園出場を目指す部員たちの元に駆け付けた。

(斎藤航輝)



高校時代の梶本さん＝県立多治見高提供

二ホームに袖を通して、多治見市営球場のグラウンドに立った。約二時間、身ぶり手ぶりを交えて投手陣に助言した。思うように制球できず自信なき投手には「球が走ってればええ。コントロールは自然に身に付く」と励まし、孫ほど年の離れた選手たちの肩や肘を氣遣う場面もあった。

「ホームに袖を通して、多治見市営球場のグラウンドに立った。約二時間、身ぶり手ぶりを交えて投手陣に助言した。思うように制球できず自信なき投手には「球が走ってればええ。コントロールは自然に身に付く」と励まし、孫ほど年の離れた選手たちの肩や肘を氣遣う場面もあった。」

「一年生の松島功真投手(こ)は「軸足の使い方をアドバイスしていただいた。フォームがきれいと言われ、自信になった」と白い歯を見せた。高木裕一監督は「大会前にありがたい限り。選手も励みになった」と

思(と)感謝していた。練習後、梶本さんは泥だらけになった選手たちに力強く声を掛けた。「絶対勝てるぞ。頑張ろう」。手をぼんとたたいて激励すると、名残惜しそに球場を後にした。

記者の#つぶやき

昨春のセンバツ出場決定時に地元で漂った独特な熱気、一体感はいまだに忘れられません。もう一度、甲子園へ連れて行ってほしい。梶本さんの熱意にも触れ、そんな思いを強く抱きました。

